



No.48 発行日 24.5.10

みどりの風

MIDORI NO KAZE

H.P <http://akaneen.com/>

法人あひるの会 理事・評議員会の役割

社会福祉法人 あひるの会
理事長 岡崎幸子



法人創設から26年たちました。「障害があっても、地域で働き、地域で安心して暮らせるための支援」を基本理念として歩んだ4半世紀でした。この理念のもと、「あかね園」のよりよい運営ができるよう、必要な事項を審議・決定するのが理事・評議員会です。

事業計画・予算、事業報告・決算、法人運営に関する規則の変更、施設長の任免をはじめとする重要な人事などを議題に、年4回以上開催されます。理事・評議員は、法人の趣旨に賛同し、あかね園発展のためにボランティアで協力する各分野の専門家・有識者で構成しています。3月23日、平成24年度事業計画、収支予算などを承認し、新年度へのGOサインが出ました。

障害者総合福祉法による制度改革を目前に控え、益々難しくなる法人運営を支えて下さる理事・評議員の方々を、今回改めてご紹介します。

国松理事は柴田施設長と共に創設当初（S.61）から理事を務め、多くの公務につかされた経験に裏打ちされた幅広い見識で、長きに渡ってご助力を頂いています。「友の会」代表でもあります。三橋理事は正に社会福祉の専門家として、藤森理事は施設立ち上げの実績を持つ実力派施設長として、貴重なご意見を頂いています。南部理事は、あかね園を利用する保護者を代表して具体的な指摘や提言をして下さいます。評議員・監事の皆様もそれぞれ会社経営、福祉関係、親、地域代表としての立場から、あかね園を全面的に、理事長の

私を側面からバックアップして下さっています。

柴田施設長には昨年9月の理事・評議員会で、24年度以降も引き続きあかね園のカジ取りをお願いすることになりました。これからの難しい時代を「あかね園」らしく、長く安定して運営できる道筋作りにもう一汗かいて頂きたいと強く望んでいます。

一人の障害者が生きる力を身につけ、「地域で働き、暮らす」幸せは、家族はもちろん周りの人々の希望へと大きく広がります。これこそがあかね園の目指すところです。今後とも皆様方の一層のお力添えをお願い申し上げます。

理事・評議員

国松実枝子	NPOワールド代表・家裁参与員
柴田 麻子	あかね園 施設長
三橋 俊一	社会福祉士
岡崎 幸子	習志野市社会福祉協議会 理事
藤森 元	大久保学園 施設長
南部 征士	元森永乳業(株)勤務

評議員

森下 正彦	社会福祉法人みのりの会 理事長
佐藤 淑子	親の会役員
中内 純子	親の会役員
深沢 實	元サントリー(株)勤務・元家裁調停委員
石井 雅親	京葉測量(株) 社長
神 恵美子	千葉県育成会 役員
原田 靖久	習志野市社会福祉協議会 秋津支部長

監事

小林 操	税理士
三股 金利	大塚福祉作業所 施設長

変化の中で

～あかね園が変わらず持ち続けたもの～

園長 柴田 麻子



新年度オリエンテーション

ここ何年かはこの時期になると、次年度こそは何か希望の持てる制度や加算はないかと期待し、目を皿のようにして、加算逃がさじと、神経を尖らせています。誰も教えてくれるわけではなく、逃せば小さな法人は運営に響いてくるからです。

23年度は前年に増して就労が進み、これまで最高21名と多くの人達が社会人になりました。

その反面、利用者確保に一年中やきもきし、今までにない40代半ばの人達も4~5人受け入れるなど必死でした。就労者を出す事で運営の首をしめるのは、25年変わらぬ現実があるのを痛感するところです。ともあれ、24年度は就労移行体制加算が付き、少しほっとしています。

あかね園が25年変わらずに突き進んで来た法人の理念、“地域で暮らす・働く”は社会の変化とともに国の福祉制度が大きく変わり、不確定ではありますが、目の前が少し開けて来ました。

理念を変えずに来た成果はこれまでに300人近い人達を企業に送り出し、特に生活上の支援を厚くすることでの定着率は75%を上回ります。

地域で長く働く為に大切な事は本人の「生活する力」です。当初から作業訓練と同じレベルで様々な場を使っただけの公共のルール、マナー、コミュニケーションのとり方など、生活していく上でのスキルを身につける事に力を入れてきました。

たしかに、企業の受け入れは進んでいますが、新制度の中で年限を切れ、十分な生活する力をつけられず、作業力の評価で就労していく人が増えている感があり、今後離職者の再訓練が多くな

るのではないかと不安です。同時に障害の多様化もあり、今後の支援の幅が広がる問題もあります。

挨拶、返事、ありがとう、ごめんなさい、そして我慢する事など基本的な事を身につけて地域に受け入れられる人達の育成は大切で、それは訓練なくしては出来ません。彼らの持つ力を信じて訓練してきたことが企業側からの信頼を頂けた大きな要因です。このことを学校や多くの支援者、そして何より保護者の方に知って頂き、障害を持つ人達も自分のできることはして、出来ない所を支援してもらおう。それあってこそ、彼らが長く安心して地域で暮らしていけると思っています。

さて、あかね園には当初から変わらないものも一つあります。パワフルな親の活動です。

保護者会、就労者親の会、そして、友の会（後援会）。みんなどこかに所属して、たゆまず意気の長い活動が法人・施設を支えています。

この活動の根底にはお互いに理解し助け合う互助の精神があります。体調の悪い人、親の介護をしている人、主体的に働く必要のある人、若い人から初老、中老(失礼)、現在の状況に合わせ、自分が出来る時に頑張る、それを大切にしています。

活動の場は又、相談の場、情報交換の場であり、おしゃべりなどストレス発散の場にもなっています。これからもながーく母の底力で楽しく元気に、したたかに活動してほしいと願っています。

おわりに、この4月、私は園長を続行させて頂き、長年の在職の整理と次の世代への引き継ぎをしっかりとしていきます。これからの時代はより社会の中で地域の中で施設がどんな役割を持ち、機能していくか問われると思います。

“共に生きる”社会は誰もが、その人に見合った義務を持ち、その上で助け合える地域作りをしていかなければならないと思います。

あかね園がこれからも長く必要とされる支援の場であり続ける為に、今年から本施行となる、キャリアパス（人材育成）の取り組みの中で若い職員が一人一人力をつけ、必ずやこの厳しい状況を乗り越えてくれると信じています。

皆様これからもよろしくご協力致します。

地域意見交換会 (平成23年度)

障害者就業・生活支援センターあかね園
支援員 中 真宏

障害者就業・生活支援センターあかね園では、今年度4回、茜浜ホールにて地域意見交換会を開催しました。これは、企業、保護者、特別支援学校(学級)、行政機関、支援機関等が、互いの連携上の様々な課題や展望について情報交換、協議をする会議です。

今回は、年間のテーマに「誰もが安心して長く地域で働き、暮らすための情報を提供するネットワークを構築する」ことを設定しました。これまでは主に、時間軸で言う横のつながり(現在の本人に対してどんなサービスを使って、どんな支援をするか)について話し合ってきました。しかし、一方で、就学時・就学中の本人と家族への情報の伝え方や、施設入所時・就職時の本人の情報の引き継ぎ内容といった、ライフステージにおける縦軸の連携の重要性が強く意識されるようになりました。

この一年は、第一段階としてそれぞれの問題の把握と各機関の役割の明確化を進めてきました。縦の連携を全体で意識し、切れ目のない情報と支援の重要性を共有したことにより、新たに浮き彫りになった課題もあります。それらを踏まえた上で、今年度は「学齢期(18歳)まで」をまとめとしました。本人を理解し、更なる成長をサポートするためのツールとして、千葉県内でも先駆的に取り組んでいる市川市のスマイルプランについて、研修会という形で市川市教育委員会の五十嵐様を講師にお招きし、お話を伺いました。

私たちは、人と関わることで成長します。それは、学齢期で言えば友人であったり、先輩・後輩



であったり、家族や先生です。年代(立場)が上の人から教わることもあり、年代の近い人たちから体験的に学ぶこともたくさんあります。他者との関わりを通して自分を知り、企業実習等を通して社会に触れ、少しずつ自分の進路(希望)が見えてくるのではないのでしょうか。「就労か否か」の2択が前提ではなく、本人の気持ちを育てることが重要だと思います。もし18歳時点で結論を出すのが難しければ、もう少し迷う(考える時間を持つ)という選択肢もあると思います。様々な体験をし、実践的に学ぶ訓練を通して、生活力が養われていく。その先に就職があるかもしれないし、その時期はもう少し先かもしれない。人によってその時期は異なります。だからこそ、本人をサポートする人たちの情報共有、引き継ぎが必要不可欠なのではないのでしょうか。

次年度以降もこのテーマを継続して取り上げ、少しずつ目指すネットワークが形作られていけばと思っています。

第24回 あひるの会「友の会」コンサート みんなで楽しむクラシック —ニューフィル千葉・室内楽と共に—

2012.12.7(金) 午後3:00開演 会場:船橋市民文化ホール(JR船橋駅南口徒歩6分)
ソプラノ:嶋崎 裕美 全席自由席 2,000円

お問合せはあひるの会「友の会」047-452-2715(あかね園内)



「友の会」平成23年度決算報告と24年度事業計画



平成23年度「友の会」の運営は皆様のご支援により健全に行われ、「友の会」の役割を果たすことが出来ました。

6月に「友の会」第23回コンサート“みんなで楽しむ『音楽世界めぐり』”と題して開催しました。以前開催したことのある船橋市民文化ホールに会場を移し、規模は縮小されましたが、お陰様で成功裡に終わり、収益を上げることができました。

あかね園は25周年を迎え、記念行事は園の忘年会とあわせ、式典を行い、「友

の会」としては助成金を出しました。

東日本大震災見舞金として5万円。法人へは300万円の寄付をすることが出来ました。決算につきましては、4月10日鈴木悦子氏の監査を受け、適正と認められました。

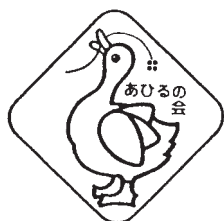
本年度は12月7日にコンサートを開催いたします。皆様のご参加とご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

単位：円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	2,708,689	事務費	591,056
会員会費	4,766,000	研修費	16,593
(個人383名、法人33件)		助成金	450,000
コンサート	1,698,000	コンサート	629,901
寄付金等	18,050	備品費	66,890
預金金利	2,667	法人への寄付	3,000,000
		次年度繰越金	4,438,966
合計	9,193,406	合計	9,193,406

24年度事業計画

4～5月 会員増強月間
 5月 みどりの風48号発行
 10月7日 あかね園バザー
 11月 みどりの風49号発行
 12月7日 第24回
 「友の会」コンサート
 25年2月 「友の会」研修会



「友の会」へのご入会をお願いいたします。

一般会員（年間一口 3,000円） 法人会員（年間一口 10,000円）

郵便振込 00110-0-354445 銀行振込 千葉興業銀行 津田沼支店 普-4771251

入会申込み、問合せは事務局まで Tel 047-452-2715 Fax 047-452-2693



園日誌より



支援員 長田 裕美

就労移行本場班が作業場を京葉測量に移してから、もうすぐ1年になります。本場では、園生全員で行っていたフィリップモリスの資材搬入ですが、現在では4人の園生が主体となっています。

毎朝、16個のラックで届く資材を前日の資材の残り状況を見て、職員が搬入時間を決めます。職員から声が掛かると、4人の園生は安全靴を履き、「資材搬入に行ってきます！」と、嬉しそうに報告していきます。

現在の作業場では、ラックが通れる広い通路や入口がない為、窓から資材を入れ、それを室内のラックに入れ直すという大変な作業です。室内にいる園生は、外のラックに入っている資材を見て、大体の形を覚えて室内のラックに入れ直します。考えずに入れてしまうと、1つのラックに入りきらなかったり、資材が落ちてきてしまう危険があります。外にいる園生も、上から順番に渡していかなければ室内にい

る園生が困ります。自分たちで考えながら、4人で連携をとっていかねばいけません。現在では、「次は縦長（の箱）です」「次は小箱です」と、資材の大きさを声かけしながら、連携をとっている姿が見られるようになりました。資材搬入の作業自体は、大変になりましたが、一人ひとりが考え、仕事をするとても良い機会となっています。

編集後記

「みどりの風」は、担当者がバトンタッチし、紙面も二色刷りに。まだまだ暗いニュースの続く世の中ですが笑顔を絶やさず前進していきたいと思えます。どうぞよろしく。(K)

編集人 あひるの会友の会代表 国松実枝子

発行所 社会福祉法人 あひるの会「友の会」

〒275-0024 習志野市茜浜3丁目4番5号